英文法 L01 第 6 講 代名詞の格と指示

学習目標

文中の役割と指示対象に合う代名詞の格を選ぶことができる。

1. 代名詞と格の基本

代名詞と格

代名詞とは、人や物などを指すときに、名詞の代わりに使う語である。

例えば、話し手自身を指す場合でも、文中の役割によって I、me、my、mine のように形が変わる。

文中の役割による代名詞の形の違いを**格**という。ここでは主格・目的格・所有格を扱う。また、所有を単独で表す**所有代名詞**は、格とは分けて扱う。

代名詞の形を選ぶときは、次の 2 点を確認する。

1. **誰・何を指すか**：話し手自身なのか、相手なのか、それ以外の人や物なのか。また、1 人・1 つなのか、複数なのか。
2. **文中で何をしているか**：主語なのか、目的語なのか、名詞の前で所有者を表すのか、名詞なしで所有者を表すのか。

例えば、日本語では同じ「私」について「私は」「私を」「私の」と言い分ける。英語では、この役割の違いが代名詞の形にも現れる。

2. 4 つの形と文中の役割

代名詞の基本的な形を、主格・目的格・所有格の 3 つの格と、所有代名詞に分けて整理する。

形	役割	例	和訳
主格	主語になる	We read books.	私たちは本を読む。
目的格	動詞などの対象になる	The teacher sees us.	先生は私たちを見る。
所有格	名詞の前で所有者を表す	Our books are here.	私たちの本はここにある。
所有代名詞	名詞なしで「〜のもの」を表す	The books are ours.	その本は私たちのものだ。

主格と目的格

主格は、主語（S）として「誰が・何が」に当たる役割を持つ。

目的格は、目的語（O）として「誰を・何を」など、動詞の対象を表す役割を持つ。

次の 2 文を比較する。

We help the teacher.

私たちはその先生を手伝う。

The teacher helps us.

その先生は私たちを手伝う。

©ミライコーチング

どちらの文でも、we と us が指しているのは同じ「私たち」である。

しかし、1 文目では「私たち」が手伝う側の主語になっているため、主格の we を使う。

2 文目では「私たち」が手伝われる側の目的語になっているため、目的格の us を使う。

文	主語（S）	動詞（V）	目的語（O）
We help the teacher.	We	help	the teacher
The teacher helps us.	The teacher	helps	us

つまり、**同じ人を指していても、主語なら主格、目的語なら目的格を選ぶ。**

また、目的格は前置詞の後ろでも使う。

前置詞とは、名詞や代名詞の前に置き、ほかの語との関係を表す語である。例えば、to（〜に）、with（〜と一緒に）、for（〜のために）などがある。

- to me：私に
- with us：私たちと一緒に
- for them：彼らのために

これらの前置詞の直後では、通常、主格ではなく目的格を使う。

所有格と所有代名詞

所有格と所有代名詞は、どちらも「誰のものか」を表すが、後ろに名詞を置くかどうかが異なる。

This is my bag.

これは私のかばんだ。

This bag is mine.

このかばんは私のものだ。

1 文目の **my** は所有格で、後ろの名詞 bag を説明している。

2 文目の **mine** は所有代名詞で、「私のもの」という意味を単独で表している。

所有格＋名詞	所有代名詞
my bag（私のかばん）	mine（私のもの）
your bag（あなたのかばん）	yours（あなたのもの）
her bag（彼女のかばん）	hers（彼女のもの）
our bag（私たちのかばん）	ours（私たちのもの）
their bag（彼らのかばん）	theirs（彼らのもの）

所有の表し方

- 所有格は、基本的に後ろの名詞と組み合わせる。
- 所有代名詞は、名詞を後ろに置かずに「〜のもの」を表す。
- 所有者が同じでも、後ろに名詞があるかどうかで使う形が変わる。

3. 人称代名詞の一覧

人や物を指す基本的な代名詞を整理する。

指す対象	主格	目的格	所有格	所有代名詞
私	I	me	my	mine
あなた	you	you	your	yours

指す対象	主格	目的格	所有格	所有代名詞
男性として指す 1 人	he	him	his	his
女性として指す 1 人	she	her	her	hers
それ	it	it	its	—
私たち	we	us	our	ours
あなたたち	you	you	your	yours
彼ら・彼女ら・それら	they	them	their	theirs

表の最後の行は、複数の人や物を指す基本的な使い方を示している。

単数・複数と代名詞

代名詞は、指す対象の数にも合わせる。

例えば、「私」と「私たち」では次のように変わる。

役割	私（1 人）	私たち（複数）
主語	I	we
目的語	me	us
所有格	my	our
所有代名詞	mine	ours

次の英文を比較する。

I am a student.

私は生徒だ。

We are students.

私たちは生徒だ。

I は話し手 1 人を指し、we は話し手を含む複数人を指す。

また、所有者の数と所有される物の数は別に考える。

Their book is here.

彼らの本（1 冊）はここにある。

Their books are here.

彼らの本（複数冊）はここにある。

どちらも所有者が複数なので their を使う。本が 1 冊か複数冊かによって、book と books が変わる。

形が同じ代名詞

- you は単数・複数で同じ形を使い、主格と目的格も同じ形である。
- his は所有格と所有代名詞が同じ形である。
- her は目的格と所有格が同じ形である。
- it は主格と目的格が同じ形である。
- its は所有格として使うが、現代英語では通常、単独の所有代名詞としては使わない。

また、名前だけから人物の性別を決めて he や she を選ぶことはできない。人物がどのように指されているか、文脈を確認する必要がある。

©ミライコーチング

4. this・that・these・those による指示

人称代名詞が「私」「彼ら」などを指すのに対して、this・that・these・those は、人や物を指し示すときに使える。

今回扱う具体的な空間場面では、**話し手からの近さ**と**指す対象の数**で使い分ける。

	近い	遠い
1 つ	this	that
複数	these	those

日本語では、この場面に応じて次のように表せる。

語	意味
this	これ
that	あれ
these	これら
those	あれら

1 つの物を指す場合

次の左右の場面を考える。

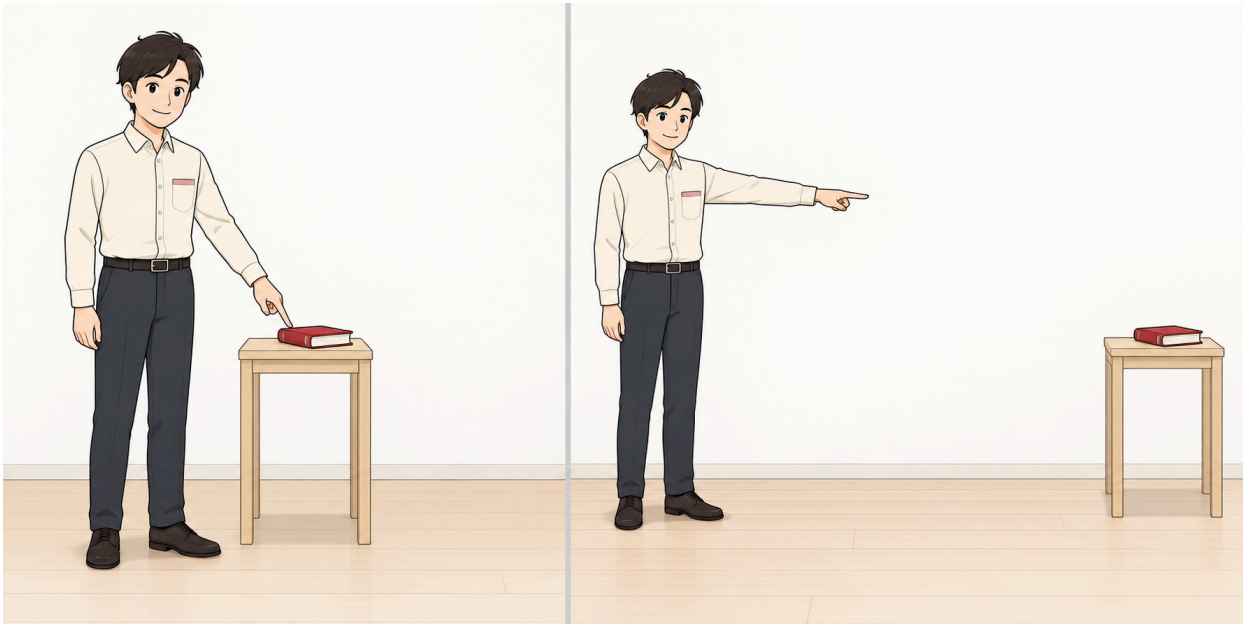

図 1　話し手の近くと離れた場所にある本

左の場面

This is a red book.　これは赤い本だ。

左では、赤い本が話し手のすぐ手元にある。話し手から近い 1 冊の本を指すため、this を使う。

右の場面

That is a red book.　あれは赤い本だ。

右では、赤い本が話し手から離れた台の上にある。話し手から遠い 1 冊の本を指すため、that を使う。

左右とも本は 1 冊なので、複数を表す these や those は使わない。

複数の物を指す場合

複数の物をまとめて指すときは、these または those を使う。

These are my pencils.

これらは私の鉛筆だ。

Those are your pencils.

あれらはあなたの鉛筆だ。

例えば、話し手のすぐ手元にある複数の鉛筆を指すなら these、話し手から離れた場所にある複数の鉛筆を指すなら those を使う。

また、this・that・these・those は、名詞の前にも置ける。

- this book：この本
- that book：あの本
- these books：これらの本
- those books：あれらの本

名詞の代わりに使う場合は指示代名詞として働き、名詞の前に置く場合は、その名詞が指す対象を限定している。

指示語を選ぶ順序

1. 指している物が 1 つか複数かを確認する。
2. 今回のように空間的な位置が明確な場面では、話し手から近いか遠いかを確認する。
3. 近い単数なら this、遠い単数なら that、近い複数なら these、遠い複数なら those を選ぶ。

なお、実際の this・that などは、会話の流れや心理的な距離などによっても使われる。すべての用法が物理的な距離だけで決まるわけではない。

5. 例題

1

話し手自身について述べている。空所に入る最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

My English teacher often talks to ( ) after class.

- A. I
- B. my
- C. mine
- D. me

解答・解説

正解：D

完成文
My English teacher often talks to me after class.

全訳
私の英語の先生は、授業後によく私に話しかける。

判断の手順
まず、空所が誰を指すかを確認する。話し手自身を指しているため、I・me・my・mine のいずれかを考える。

次に、空所の直前を見る。to は「〜に」という関係を表す前置詞である。前置詞の後ろに代名詞を置く場合は、通常、目的格を使う。

したがって、to me が正しい。

各選択肢の検討
- **A. I：誤り**。 I は主格で、主語として使う形である。ここでは前置詞 to の後ろなので適切ではない。
- **B. my：誤り**。 my は所有格で、基本的に my book（私の本）のように後ろの名詞と組み合わせる。ここでは「私に」という意味が必要である。
- **C. mine：誤り**。 mine は「私のもの」を表す所有代名詞である。文脈には私の所有物が登場しておらず、話しかけられる相手である「私」を表す形として適切ではない。
- **D. me：正しい**。 me は「私」を指す目的格である。to の後ろに置くことで「私に」という意味になる。

この問題では、指す人物だけでなく、前置詞の後ろという文中の位置が決め手になる。

2

話し手が青いノート 1 冊を手に持ち、それを初めて相手に紹介している。空所に入る最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

( ) is the blue notebook in my hand.

- A. This
- B. Those
- C. That
- D. These

解答・解説

正解：A

完成文
This is the blue notebook in my hand.

全訳
これは私の手の中にある青いノートだ。

判断の手順
まず、指している物の数を確認する。話し手が持っている青いノートは 1 冊なので、単数を表す this または that を考える。

次に、話し手との位置関係を確認する。ノートは話し手自身の手の中にあり、すぐ近くにある物を紹介している。

したがって、近い単数を指す This が最も適切である。

各選択肢の検討
- **A. This：正しい**。 話し手の近くにある 1 冊のノートを指している。単数であり、is とも対応する。
- **B. Those：誤り**。 遠くにある複数の物を指す形である。今回は 1 冊であり、is とも数が合わない。

- **C. That：誤り。** 単数という点は合うが、今回の場面では話し手が手に持っている物を初めて指し示しているため、遠い対象を指す that より this が適切である。
- **D. These：誤り。** 近い物を指す点は合うが、複数を表す形である。今回はノートが 1 冊なので、these は使わない。

この問題では、**単数か複数かを先に確認し、その後に近さを判断する**と選びやすい。

6. 演習問題

各問について、指定された文脈に合う最も適切なものを A〜D から 1 つ選べ。

1

話し手とその友人の 2 人について述べている。空所には、この 2 人を表す代名詞を入れる。

( ) are ready for the school trip today.

- A. Us
- B. We
- C. Our
- D. Ours

2

先生が、音楽クラブに所属する 3 人の生徒を知っているという意味にする。空所には、その 3 人を表す代名詞を入れる。

The teacher knows ( ) from the music club.

- A. their
- B. they
- C. them
- D. theirs

3

話し手の姉が所有するお気に入りの本について述べている。空所には、その姉を所有者として表す語を入れる。

This is ( ) favorite book on the desk.

- A. her
- B. hers
- C. she
- D. him

©ミライコーチング

4

話し手とその友人の 2 人が共同で所有する大きな箱について述べている。空所には「私たちのもの」を表す語を入れる。

The large box by the door is ( ).

- A. we
- B. us
- C. our
- D. ours

5

話し手とその友人の 2 人が、毎日昼食時に先生と一緒に座る習慣について述べている。空所には、その 2 人を表す代名詞を入れる。

The teacher sits with ( ) at lunch every day.

- A. ours
- B. we
- C. us
- D. our

6

2 人の生徒が所有する新しい教科書について述べている。空所には、その 2 人を所有者として表す語を入れる。

( ) new textbooks are on the table now.

- A. Them
- B. Their
- C. Theirs
- D. They

7

話し手から離れた窓ぎわの机の上に、赤いノートが 3 冊ある。話し手がその 3 冊をまとめて指す場合、最も適切なものを選べ。

( ) are the three red notebooks by the window.

- A. That
- B. This
- C. These
- D. Those

©ミライコーチング

8

話し手が手に持つお盆の上に、小さなカップが 2 個ある。話し手がその 2 個をまとめて指す場合、最も適切なものを選べ。

( ) are the two small cups on this tray.

- A. These
- B. Those
- C. This
- D. That

演習問題の解答・解説

1

正解：B

完成文

We are ready for the school trip today.

全訳

私たちは今日、学校の旅行に行く準備ができている。

判断の決め手

空所は文の主語であり、話し手を含む 2 人を指している。したがって、複数を表す主格の We を選ぶ。

各選択肢の検討

- **A. Us：誤り**。 us は目的格であり、今回の文では主語を表す形として適切ではない。
- **B. We：正しい**。 we は話し手を含む複数人を指す主格である。主語になり、are とも対応する。
- **C. Our：誤り**。 our は所有格である。our bags（私たちのかばん）のように名詞の前で使う形であり、この位置で 2 人そのものを主語として表せない。
- **D. Ours：誤り**。 ours は「私たちのもの」を表す所有代名詞である。文脈で指定された 2 人自身を指す主格ではない。

話し手 1 人なら I、話し手を含む複数人なら we を使う。

2

正解：C

完成文

The teacher knows them from the music club.

全訳

その先生は、音楽クラブを通じて彼ら 3 人を知っている。

判断の決め手

空所は動詞 knows の対象であり、3 人の生徒を指す目的語である。複数人を指す目的格の them を選ぶ。

各選択肢の検討

- **A. their：誤り。** their は所有格であり、their books（彼らの本）のように名詞の前で所有者を表す。今回は所有物ではなく、生徒 3 人自身を指している。
- **B. they：誤り。** they は主格である。空所は動詞 knows の目的語なので、主格は使えない。
- **C. them：正しい。** them は複数の人や物を指す目的格であり、knows の目的語として 3 人の生徒を表す。
- **D. theirs：誤り。** theirs は「彼らのもの」を表す所有代名詞である。今回は彼らの所有物ではなく、彼ら自身を知っているという意味なので適切ではない。

人を指していても、動詞の対象になっている場合は目的格を選ぶ。

3

正解：A

完成文

This is her favorite book on the desk.

全訳

これは机の上にある、私の姉のお気に入りの本だ。

判断の決め手

空所の後ろには favorite book という名詞を中心とするまとまりがある。

所有者は話し手の姉、つまり女性であることが文脈で明示されている。その女性の所有・関係を名詞の前で表すため、所有格の her を使う。

各選択肢の検討

- **A. her：正しい。** her は女性として指されている人の所有格として使える。her favorite book で「彼女のお気に入りの本」を表す。
- **B. hers：誤り。** hers は所有代名詞であり、「彼女のもの」を単独で表す。今回のように favorite book という名詞の前に直接置く形ではない。
- **C. she：誤り。** she は主格であり、主語として使う形である。名詞 favorite book の前で所有者を表すことはできない。
- **D. him：誤り。** him は目的格であり、後ろの名詞を修飾する所有格ではない。また、文脈で指定された所有者を指す形としても合わない。

her book（彼女の本）と hers（彼女のもの）の違いを押さえる。

4

正解：D

完成文

The large box by the door is ours.

全訳

ドアのそばにあるその大きな箱は、私たちのものだ。

判断の決め手

空所の前には is があり、その後ろで箱の所有者を表している。

「私たちのもの」という意味を、後ろに名詞を置かずに表すため、所有代名詞の ours を選ぶ。

各選択肢の検討

- **A. we：誤り。** we は「私たちは」を表す主格である。「私たちのもの」という所有の意味を表す形ではない。
- **B. us：誤り。** us は「私たちを・私たちに」などを表す目的格である。箱の所有を表す形ではない。
- **C. our：誤り。** our は所有格であり、our box（私たちの箱）のように名詞と組み合わせる。今回の空所の後ろには名詞がないため使えない。
- **D. ours：正しい。** ours は「私たちのもの」を表す所有代名詞である。is の後ろに置き、箱の所有者を示すことができる。

our box（私たちの箱）と The box is ours.（その箱は私たちのものだ）は、所有の表し方が異なる。

5

正解：C

完成文

The teacher sits with us at lunch every day.

全訳

その先生は毎日、昼食時に私たちと一緒に座る。

判断の決め手

空所の直前の with は「〜と一緒に」という関係を表す前置詞である。

前置詞の後ろで、話し手を含む 2 人を指すため、目的格の us を使う。

各選択肢の検討

- **A. ours：誤り。** ours は「私たちのもの」を表す所有代名詞である。ここでは所有物ではなく、先生と一緒に座る 2 人自身を指している。
- **B. we：誤り。** we は主格である。前置詞 with の後ろでは、通常、目的格を使う。
- **C. us：正しい。** us は「私たち」を指す目的格であり、with us で「私たちと一緒に」を表す。
- **D. our：誤り。** our は所有格であり、後ろの名詞と組み合わせて使う形である。今回は 2 人自身を指すため適切ではない。

動詞の目的語だけでなく、前置詞の後ろでも目的格を使う点が重要である。

6

正解：B

完成文

Their new textbooks are on the table now.

全訳

彼らの新しい教科書は今、テーブルの上にある。

判断の決め手

空所は new textbooks という名詞を中心とするまとまりの前にある。

所有者は 2 人の生徒なので、複数人を指す所有格の their を使う。

各選択肢の検討

- **A. Them：誤り。** them は目的格であり、所有者として名詞 textbooks を直接修飾する形ではない。
- **B. Their：正しい。** their は複数の人や物を指す所有格である。their new textbooks で「彼らの新しい教科書」を表す。
- **C. Theirs：誤り。** theirs は「彼らのもの」を表す所有代名詞である。単独では使えるが、今回のように new textbooks の前に直接置けない。
- **D. They：誤り。** they は主格である。所有者を表すために名詞の前に置く形ではない。

所有格 their と所有代名詞 theirs は、どちらも所有者を表すが、後ろに名詞が続くかどうかで使い分ける。

7

正解：D

完成文

Those are the three red notebooks by the window.

全訳

あれらは窓のそばにある 3 冊の赤いノートだ。

判断の決め手

指しているノートは 3 冊なので、複数形の these または those を考える。

また、ノートは話し手から離れた窓ぎわの机にある。今回の空間場面では、遠い複数の物を指す those が適切である。

各選択肢の検討

- **A. That：誤り。** 遠い物を指す点は合うが、that は単数を表す。今回は 3 冊なので数が合わず、are とも対応しない。
- **B. This：誤り。** this は近い単数の物を指す。今回は遠い場所の 3 冊なので、近さも数も合わない。
- **C. These：誤り。** these は複数を表し、are とも対応する。しかし、今回の場面ではノートが話し手から離れているため、近い対象を指す these は適切ではない。
- **D. Those：正しい。** those は遠い複数の物を指す。3 冊のノートという数と、話し手から離れた位置関係の両方に合う。

数だけでなく、話し手との空間的な位置関係まで確認する。

8

正解：A

完成文

These are the two small cups on this tray.

全訳

これらは、このお盆の上にある 2 個の小さなカップだ。

判断の決め手

指しているカップは 2 個なので、複数を表す these または those を考える。

カップは話し手が手に持つお盆の上にあり、すぐ近くにある。そのため、近い複数の物を指す these を選ぶ。

各選択肢の検討

- **A. These：正しい**。 話し手の近くにある 2 個のカップを指す。複数を表し、are とも対応する。
- **B. Those：誤り**。 複数という点は合うが、遠い対象を指す形である。今回はカップが話し手の手元にあるため、these が適切である。
- **C. This：誤り**。 近い物を指す点は合うが、this は単数を表す。2 個のカップには対応せず、are とも数が合わない。
- **D. That：誤り**。 that は遠い単数の物を指す。今回は近くにある 2 個のカップなので、近さも数も合わない。

this は近い単数、these は近い複数を表す。今回のような具体的な場面では、指示対象の数と位置を組み合わせて判断する。